

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2023/10/24

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	36.31	-0.19
JPY/THB	0.2425	-0.0012
USD/JPY	149.71	-0.15
EUR/THB	38.74	0.05
EUR/USD	1.0670	0.0076
USD/CNH	7.310	-0.017
SGD/THB	26.56	-0.04
AUD/THB	23.00	-0.05
USD/INR	83.19	0.07
USD Index	105.54	-0.63

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.942	0.000
10Y (THB)	3.372	0.000
5Y (USD)	4.799	-0.059
10Y (USD)	4.850	-0.064

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	1,976.3	-6.2
WTI (Oil)	85.49	-3.26
Copper	7,972.0	23.5

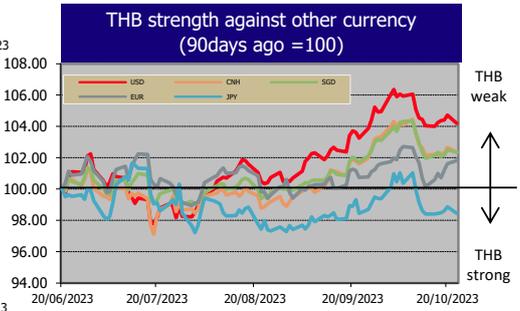
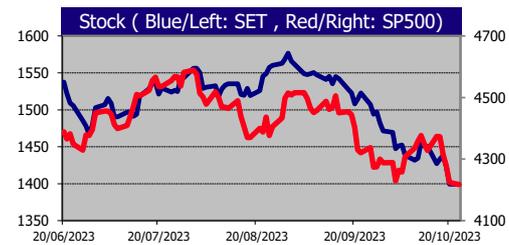
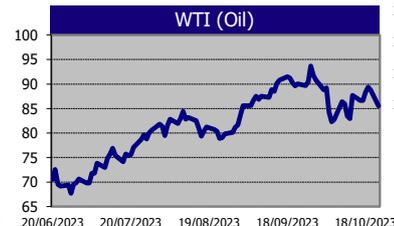
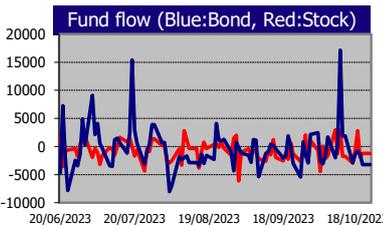
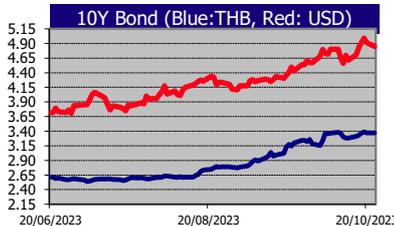
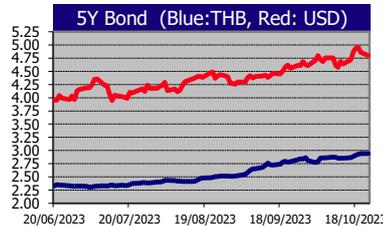
Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,399.35	0.00
NIKKEI (JP)	30,999.55	-259.81
DOW (US)	32,936.41	-190.87
S&P500 (US)	4,217.04	-7.12
SHCOMP (CN)	2,939.29	-43.77
DAX(GER)	14,800.72	2.25

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(1,215)	0.0
Bond net flow	(3,234)	0.0

*compared with previous day
(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・20日(金)のドルパーツは小幅上昇。36パーツ台半ばでスタートすると、高水準での推移が続く米長期金利を横目にドルパーツは底堅い値動きに終始。海外時間、米長期金利が5%目前の水準を付けた場面ではドルパーツも同日高値付近まで上昇した。終盤にかけてはやや弱含む場面も見られたものの下落幅は限定的で、底堅い推移を維持しながら越週した。週明け、昨日のドルパーツは下落。36パーツ半ば付近でスタートし、先週末の流れを引き継ぐ格好で底堅い推移を見せるも、バンコク時間午後にかけてオープンと同水準に戻し、上に往ってこいの展開に。海外時間に入り、米長期金利が一時5%台を示現するも定着には至らず10bp以上の下落を見せると、ドルパーツも36パーツ台前半まで下落。終盤にかけてはそのまま同水準での推移が続き、結局36.31レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・20日(金)のドル円はほぼ変わらず。149円台後半で取引を開始。堅調な動きを続ける米長期金利を眺めながらドル円も底堅く推移。バンコク時間午後には150円ちょうど付近で推移していたドル円が、149円台半ば付近まで瞬間的に下落する場面が見られた。直ぐに149円台後半まで戻したが、その後は大きな動きを見せることなく週末の取引を終えた。週明け、アジア時間オープン前にドル円は150円台に乗せるも、直ぐに149円台後半まで戻されアジア時間オープン。しばらく狭いレンジでの推移が続いたが、海外時間に米金利が下落に転じる動きに連れて149円台半ばまで下落。終盤にかけてはやや反発する動きを見せ、149.71レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

昨日は早朝にドル円が10月3日以来となる150円台に突入し、前回と違いその後急落することもなく150円付近で推移しています。連合の春閣基本構想を受けた賃金上昇への期待感や展望レポートの物価見通し引き上げ予想などがでており日銀の金融政策変更に対する思惑も広がりだして円金利も上昇しているものの米金利はさらに上昇しているため、150円付近での推移も合理性があると見られておりリスクオフ環境にも関わらず円選好とはならないのが今の状況です。米金利の上昇はFedに対する追加利上げ期待ではなく、安定的な経済環境下で長期の債券に投資する際のタームプレミアムを要求するものとなっています。そうすると、深い逆イールドカーブが修正されるべく金利上昇が進むのは自然の流れであり労働環境が冷える等のリセッションに近づく動きがない限りにおいては今の状況は継続するかと思います。ドル円が反転するためには、日銀の金融政策の変更が実際に示されることが必要であり、今月末の決定会合においてYCCの修正等があるのかどうか注目が集まるところです。(塩谷)